生存率(Kaplan-Meier 法により算出)を stage, 組織型および摂取比を基に比較し，以下の結果を得た.

1) stage が進行するほど，また，摂取比が低値であるほど予後不良であった.

2) 同一の stage および組織型においても，摂取比が低値であるほど予後不良であった.

3) 特に，stage III・IV の非手術症例では，stage よりも摂取比によって，より予後の良好な群を選別し得た.

9. ^{67}Ga スキャンの SPECT イメージ ——Planar イメージへの再合成について——

溝江 純悦　白土 博樹　齋藤 博哉
大野 竜一　(帯広厚生病院・放)
中駄 邦博　藤森 研司　塚本江利子
伊藤 和夫　古舘 正従　(北大・核)

^{67}Ga シンチグラフィにおいて，SPECT のデータを用いて Planar イメージを作成した．これにより，Whole Body → Planar → SPECT という検査手順が，Whole Body → SPECT (→ Planar の再合成)と，1ステップ省略することが可能となり，手順の簡素化が期待できる．再合成の際，各 SPECT イメージに対して種々の深さに対する Weight を使用して作成した．その結果，距離の二乗に反比例する Weight が，通常の Planar イメージにもっとも近い画像であった．このことは，通常の Planar 像では，軀幹の中央付近の集積は，前面像・後面像いずれに対しても，かなりの減衰でもって反映していることを示している．したがって，SPECT データより Planar 像を作成する場合，深さに対する減衰補正を行わずに作成する方法を今後採用する予定である．また，Planar 像を再合成することにより，個々の SPECT 像では得られない，対称領域の全体像を見ることが可能となり，診断への寄与が大である.

10. 経過観察できた肺塞栓症における肺血流シンチグラム，および胸部単純写真の検討

小川 芳弘　高橋 弘(磐城共立病院・放)
菅野 和治　(同・内)

臨床症状，肺血流シンチグラム，肺血管撮影などから肺塞栓症と診断，治療した7例について，肺血流シンチグラム，胸部単純写真の経過を観察，検討した.

発症直後の肺血流シンチグラムでは，病巣部の欠損およびそれ以外の領域の相対的 RI 集積の増加を認めた．これは，塞栓による血流の redistribution によるものと考えられる．臨床症状の軽快とともに欠損領域の減少を認めた．発症直後の胸部単純写真においては，肺動脈の拡張以外，従来いわれている所見はほとんど認めなかったが，局所的な塞栓症の場合塞栓部以外の肺血管陰影の増強が，多発性広範囲の塞栓症の場合，心陰影の拡大がそれぞれ認められた．これらは，塞栓による血流の redistribution によるものと考えられる．臨床症状の軽快とともに約1～2か月でこれらの所見は軽減していた.

今後さらに症例を増やし検討を加えていきたい.

11. Fibrous dysplasia の骨シンチグラフィーについて

丸岡 伸　中村 護　(東北大・放)

Fibrous dysplasia の ^{99m}Tc-MDP 骨シンチグラムと X 線学的所見について検討した．対象は12例で，年齢13–36歳(平均21歳)，男性4例，女性8例，type 別の内訳は monostotic 7例，monomelic 3例，polyostotic 2例である．12例全例，病変部位に異常集積像を認めたが，集積の程度は強いものと弱いものとが見られ一定していなかった．X 線学的所見と対比すると，fibrous tissue が主と思われる radiolucent な部位では集積は少ない傾向にあった，以上より集積の強さは病変部に含まれる fibrous tissue と osteoid や bone の多少によると思われた.

12. RI クリアランス法による定量的腎機能検査法 ——水腎症および尿管S状結腸吻合術後症例について——

菅野 理　(山形大・泌)
高橋 和栄　駒谷 昭夫　(同・放)

^{99m}Tc-DTPA によるレノグラム検査時に，左心室からの RI 消失を体外計測し，これを，血中からの消失とみなし，非線形最小二乗法により解析し，総腎 GFR を測定した．分腎機能は，レノグラムの1.5分から2.5分までの相対的 RI 摂取率から求めた．この方法で求めたクリアランスと Ccr とを比較したところ，y=1.01x+

Presented by Medical*Online